

氷川神社
社報 第十七号

武蔵一宮

武蔵國一宮



東日本大震災から節目の十年を迎え



浦安の舞



復興祈願祝詞



撤去前の犬宮公園口の石鳥居



黙祷を捧げる参拝者

東日本大震災から十年。巨大津波と原発事故という未曾有の複合災害により、関連死を含めて全国で約一九六〇〇人の命が奪われ、二五二八人が行方不明となっています。犠牲となられた方々に哀悼の意を表するとともに、大切な家族や故郷の土地を失ってしまった方々に、改めてお見舞い申し上げます。

当社では、大きな揺れに見舞われたものの、人的な被害はありませんでした。しかしながら大宮公園口に建てておりました石鳥居にはひびが入ったため、続く余震から事故になる前に柱を残して撤去致しました。大きく被災された福島・宮城・岩手県の神社に対しては、各神社庁を通し微力ながら義援金をお送りさせて頂きました。

毎年三月十一日には復興を祈願し、舞殿にて雅楽の奉奏を行っておりますが、本年も参拝者には案内放送を行い、御一緒に黙祷を捧げて頂いた後に浦安の舞を奉奏致しました。また、三月十五日の郷神楽祭にあわせて復興祈願祝詞を奏上致しました。

生ひ立ちて 防災林に 育てよと くらまつを植う 福島の地に

上皇陛下は天皇御在位中の平成三十年六月、上皇后陛下と福島県での全国植樹祭に御臨席されました。こちらの御製は、大きな被害を受けた地域に海岸防災林を育てるため、クロマツの苗木をお手植えになられた事を詠まれた御製です。

今ひとたび 立ちあがりゆく 村むらよ 失せたるものの 面影の上に

こちらの御歌は、上皇后陛下が平成二十四年に東日本大震災の被災地を思いお詠みになられた歌で、震災により失われた命や風景を面影として心に抱きつつ、復興に向けて立ち上がろうとしている人々にお心をお寄せ頂いた御歌です。

平成から令和と変わっても、上皇上皇后両陛下の大御心が移ろう事はありません。

東日本大震災から十年の節目にあたりますが、これからの十年、またその先の未来も祈りを重ねるとともに、国民等しく心を寄せて協力しあっていきたいものです。

祭事曆

当社では毎日の日供祭以外にも年間約七十の祭典を行い、謹んで御皇室の弥栄と国家安泰、五穀豊穰と氏子崇敬者の繁栄を祈願しております。

- 一月 一日 歳旦祭
- 二日 日供始祭
- 三日 元始祭
- 七日 昭和天皇祭遙拜式 成人祭
- 十五日 併 献詠祭 (兼題 夷)
- 二月 一日 月次祭
- 二日 節分祭
- 三日 初午祭(稻荷神社)
- 七日 的祈事
- 十一日 紀元祭
- 十五日 献詠祭 (兼題 東風)
- 十七日 祈年祭
- 二十三日 天長祭
- 三月 一日 月次祭
- 十五日 郷神楽祭 併 献詠祭 (兼題 田)
- 東日本大震災復興祈願祭
- 春季皇霊祭遙拜式 春分祭
- 二十日



郷神楽 神楽殿



祈年祭

氷川神社の神楽①

当社での神楽の始まりが何時からかは不明ですが、天保四年(一八三三)に書かれた『氷川大宮縁起』によると、宝暦年間(一七五一〜一七六四)に行われていた神楽がいったん途絶え、寛政元年(一七八九)に徳川幕府より五穀豊熟の祈祷の通達があったため、三月十五日を吉日と定め三十六座の神楽が奉納されるようになったとしています。

当社の神楽には※神子神楽と太々神楽があり、神子神楽は「神代舞」が三座、太々神楽は「天津舞」が二十八座、「国津舞」が三十六座あり、さらに座外一座が加わり、全部で六十八座もありました。三月十五日にはこれらを組み合わせる三十六座を行う習わしで、例祭では神代舞、前日の宵宮では太々神楽が行われていた他、一月七日の奉射、夏越大祓でも行われていました。

神楽はもともと当社に所属していた社人と呼ばれる特定の家が行っており、江戸時代には大いに神楽講は賑い、祭礼に欠かせなくなりました。しかし、明治時代に入ると神祇官が設置され神社が国の管理となるなど、祭礼の在り方に変化が生じ急速に衰えていきました。

それまで神楽を伝承してきた杉山家と堀江家も、規模を縮小しながら神楽を奉納しておりましたが休止を余儀なくされました。杉山家は江戸神楽師として生計を立てるようになり巫女殿での神前舞だけを奉納、弟子の中本家が神楽殿での里神楽を受け持つようになりました。昭和四十年代には杉山家が途絶え、中本家も廃絶してしまい、神楽は弟子筋や近隣の神楽師・囃子連に引き継がれています。現在は、江戸里神楽の流れを汲む大成三丁目囃子連が、三月、四月、八月、十一月に神楽を奉納しています。

※「東角井日記」では巫女神楽ではなく神子神楽と記載しています。



額殿 太々神楽にあたり奉納された額

社頭往來

正月 初詣

コロナ禍の影響により令和三年初詣は、混雑を避けるため十二月から二月まで参拝の分散化になりました。三が日の人出は、一日は約三十万人、二日は約二十万人、三日は約二十万人で、合計は約七十万人でした。本年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一日の大宮鷹職組合によるはしご乗り、三日の大宮能楽研究会による謡初めが中止となりました。

氏子総代初祈禱祭



一月十二日午前十一時、氏子総代・評議員約六十名参列のもと初祈禱祭を執り行い、本年の皆様が無病息災と御活躍を祈願致しました。

緊急事態宣言発出の影響

一月七日、首都圏周辺の一都三県を対象とした二度目の緊急事態宣言が発出されました(期間 一月八日～三月二十一日)。さいたま市における成人の日の記念行事は、毎年さいたまスーパーアリーナで開催されますが、本年は中止となったため、境内には晴れ着で参拝する方大いに華やぎました。



また、緊急事態宣言発出に伴い、一月三十一日に予定されておりました婚礼展示会は中止となりました。

防災訓練

一月二十二日午前九時より大宮消防署の指導のもと、放水作業などの防災訓練を行いました。文化財防火デーの制定は、昭和二十四年一月二十六日に、現存する世界最古の木造建造物である法隆寺(奈良県斑鳩町)の金堂が炎上し、壁画が焼損したことに基づいています。



節分撒豆式中止

本年の立春は二月三日となったため、百二十四年ぶりに二月二日が節分となりました。節分祭は例年通り行われましたが、撒豆(さんず)式は密集を避けるため、中止となりました。

大宮アルディージャ絵馬奉納

二月二十五日午後三時、大宮アルディージャの必勝祈願を行いました。佐野社長、岩瀬監督が玉串を捧げ今期の必勝を祈願しました。



写真提供：大宮アルディージャ

『緊急SOS！池の水
ぜんぶ抜く大作戦』収録



三月二日、テレビ東京系『緊急SOS！池の水ぜんぶ抜く大作戦』の収録が行われました。平成三十年九月に神池の浚渫を行って頂いてより、度々現在の状況や蛍放生の様子を放送して頂いておりますが、今回は大宮公園に隣接するひょうたん池の浚渫作業となりました。番組出演者の他、氷川ほたるの会員

の有志三十名により、作業が行われました。
放映日 三月十四日

節分祭用 弓奉納

三月三日、節分祭鳴弦の儀で使用する弓を奉納頂きました。奉納者の大宮弓道連盟坂本武彦様、鳴弦の儀や的神事で御奉仕頂く浅子好夫様参列のもと、奉納奉告祭を執り行いました。



参道植樹

三月十四日、敬神婦人会会員

の川元様はじめ大人子供あわせて六十名で、参道にサクラ(神代曙)、ヤマモミジ、常緑ガマズミ、ヒラドツツジ、ジンチョウゲなど約百五十本が植樹されました。



モミジ奉納

三月二十二日、大宮ロータリークラブ様よりヤマモミジの奉納を頂きました。



正式参拝及び諸会議

- 一月 七日 大宮南ロータリークラブ
- 十三日 大宮東ロータリークラブ
- 十六日 さいたま市長 清水勇人
- 十九日 一万人的お宮奉仕
- 二十八日 和合インターナショナル和の道
- 二月 九日 氷川ほたるの会
- 三月 二日 責任役員会
- 敬神講社理事會
- 氏子総代会並評議員會
- 三日 坂本武彦 浅子好夫
- 八日 日牟禮八幡宮 祢宜 岳一隆
- 十一日 東日本復興祈願雅楽演奏
- 十四日 武蔵菊花会
- 武蔵菊花会總會
- 二十一日 國學院大学神道学専攻科
- 二十二日 不二サッシ株式会社
- 二十四日 大日本茶道学会埼玉県支部連合會
- 二十八日 日本弥栄の会

参道清掃奉仕御礼

参道の清掃活動を頂きました皆様
の芳名を紹介し、謹んで御篤志に感謝申し上げます。参道清掃のお申し出、お問い合わせは社務所までお願い致します。(五十音順、敬称略)

- 阿含宗埼玉道場
- 大宮明るい社会づくりの会
- みずほ証券株式会社

新編武蔵風土記稿に見る氷川神社



右の洋装本は、昭和四十四年に株式会社歴史図書社が発行したものです。

『新編武蔵風土記稿』は、江戸幕府が文化七年（一八一〇）から文政十二年（一八二九）まで、二十年間に及ぶ歳月をかけて編纂した全二百六十五巻という膨大な地誌です。

明治十七年に明治政府の内務省地理局は本県の根岸武香らに出版を許可し、全八十冊にて刊行されました。

武蔵の国は現在の埼玉県と東京都の全域、横浜・川崎市域を含む神奈川県の一部にわたる東西一〇四km、南北一〇〇kmの面積を有する広大な国で、同書は、この武蔵の国に関する地誌として、きわめて高い学問的価値を有する資料として広く知られています。

その内容は、総国図説、建置沿革、山川、芸文、国内の二十二郡について、領主の変遷や寺社などの名所旧跡なども記載されております。

当社に関しては、由緒として杵築大社（現 出雲大社）を遷し祀ったため氷川神社の神号を賜った事や朝野の崇敬の事例、約九万坪の境内地があり、明暦三年に社領五十石余りが見沼に水没した代地として新開村が寄付された事（見沼水没地知行所替地覚）では承応三年や、現在の神池につながる御手洗池には尊菜が自生している事など多岐にわたります。

また、当時の本殿は男体社、女体社、簸王子社と三社ありましたが、男体社と女体社の間には御神木である大杉があり、神仏習合の時代であったため、正観音を祀る本地堂や不動堂などがあった事も記載されております。

当社については和装本では五十二巻、歴史図書社の洋装本では五巻に記載されております。



歴史と民俗の博物館 外観



新編武蔵風土記稿の版木

北沢楽天作「渋沢栄一像」
県立歴史と民俗の博物館蔵

当社に隣接する大宮公園内の県立歴史と民俗の博物館では、新編武蔵風土記稿の刊行に際して使用された版木を収蔵しており、三月二十一日まで展示が予定されておりましたが、新型コロナウイルスの影響で実施できませんでした。

同館は、県立博物館として開館してから、今年で五十周年を迎えます。一九七一年十月に竣工したこの建物は建築家・故前川國男氏による設計で、日本芸術院賞、毎日芸術賞など数々の賞を受賞し、公共建築百選にも選定されています。

同館の「埼玉における人々のくらしと文化」がテーマの常設展には、明治天皇が当社に行幸された様子を描いた『明治天皇行幸絵巻』のレプリカも展示されており、その他、特別展や企画展、入場無料の体験ゾーンである、ゆめ体験ひろばやミュージアムショップもごさいます。

また、本年は埼玉県百五十周年にあたる事から、埼玉県百五十周年・開館五十年記念として、県を代表する経済人である渋沢栄一を紹介する特別展「青天を衝け〜渋沢栄一のまなざし〜」が三月二十三日(火)から五月十六日(日)まで開催されます。

渋沢栄一は、明治天皇御親祭五十年祭において奉賛会顧問を務めるとともに、境内の石鳥居敷石事業にあたっては多額の寄付を頂くなど、当社とも縁がございます。

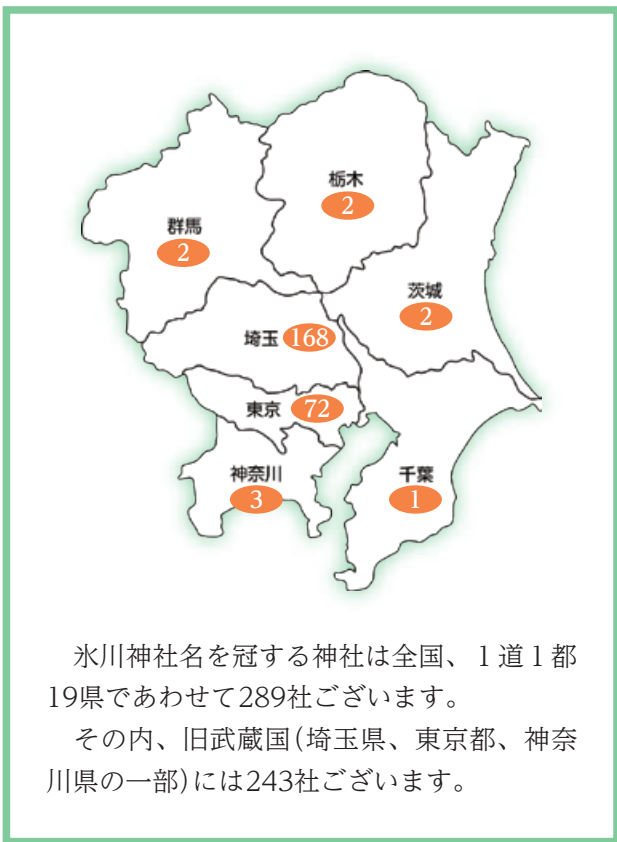
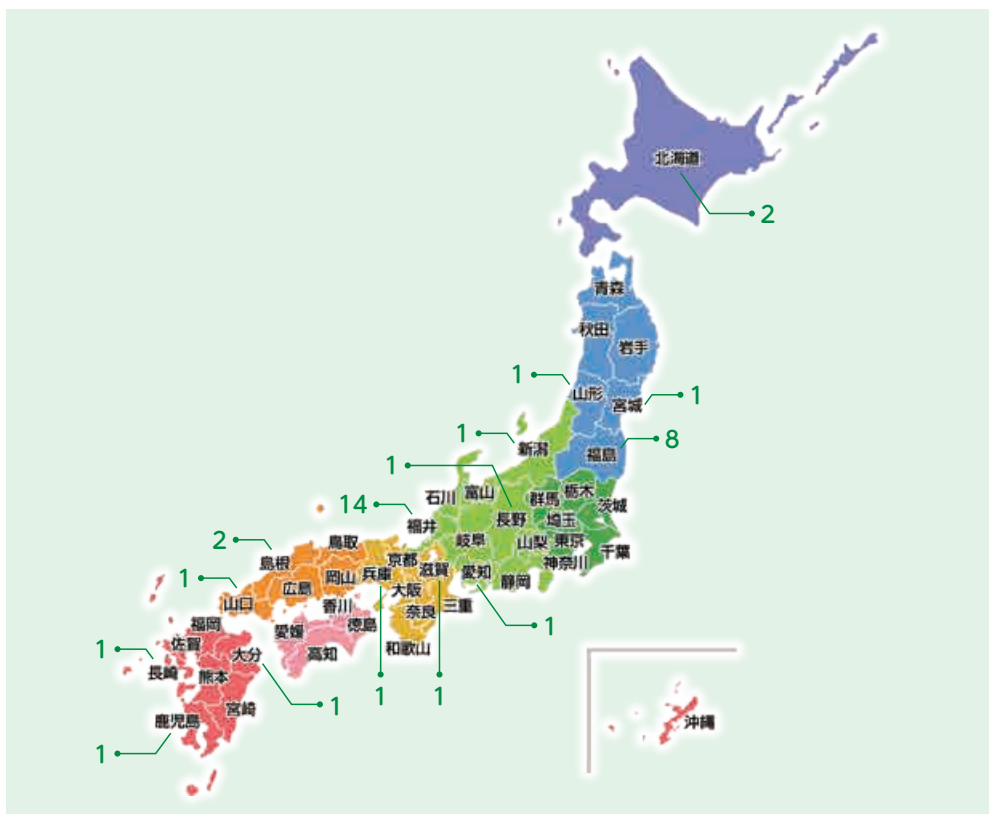
氷川神社、県立歴史と民俗の博物館はミュージアムヴィレッジ大宮公園に参画しています。「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」は、東武アーバンパークライン(野田線)の大宮公園駅を起点とした半径1kmに位置する9つの施設のエリア名称で、各施設の個性を生かしながら相互に連携する、魅力的なカルチャー&スポーツエリアです。



「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」参画施設

武蔵一宮氷川神社・県立歴史と民俗の博物館・さいたま市立博物館
東武鉄道大宮公園駅・大宮公園・さいたま市立漫画会館・大宮盆栽村
さいたま市大宮盆栽美術館・NACK5スタジアム大宮

全国に鎮座する氷川神社



特定の神社に祀られている祭神を、異なる場所で恒久的に祀る事を分祀といいます。もとなつた神社は本社、または総本社(〇〇宮の場合は本宮)といい、分霊(ぶんれい・わけみたま)を祀った神社は分社といひます。分祀される理由は、封建領主の信仰神、祭神の神託、巡幸の跡地などさまざまです。

当社の社名は、清らかさ、神聖さを表す水「ヒ」と原初の祭祀場所が古代からの湧水地である事から古語で水を表す「カワ」、また出雲に流れる斐伊川の名に因むものといわれます。

荒川は古来幾度も川筋を変え、その流域は度々氾濫に悩まされてきました。当社は農耕・開拓神として篤く崇敬された事から、荒川水系では守り神としてお祀りされました。その他、武蔵武士が移り住んだ先でお祀りした事も理由として挙げられます。

氷川神社本殿を移築した分社

上大久保氷川神社

二間社流造、棧瓦葺。桁行2.7メートル、梁間1.89メートル、向拝の出1メートル。伝大宮氷川神社旧本殿。文禄五年(一五九六)建立と記録にある本殿(大間木氷川神社本殿の一代前か)を式年遷宮の際に譲り受けたものと推定されています。もとは現在の埼玉大学地内にあったものが移転されました。御祭神として素戔嗚尊、大日靈貴命(天照大神の別名)、菅原道真公、猿田彦命を祀り、境内社として稻荷社に倉稻魂命、門客人社に足名槌命、手名槌命を祀ります。社殿は本殿、幣殿、拝殿と並び、例祭、夏祭り、秋祭りが盛大に行われる他、桜の頃は氏子の憩いの場所となります。



所在地 さいたま市桜区大字上大久保562
指定区分 さいたま市指定有形文化財(建造物)

例祭日 2月15日

大間木氷川神社



江戸時代寛文七年(一六六七)。一間社流造。こけら葺形銅板葺。当社が本殿を建て替えた際、その旧本殿を買い請けたものと伝えられています。平成五年の拝殿の火災により焼損し、平成七年から八年にかけて解体修理が行われ、寛文期の姿に復されています。またその際、寛文七年の銘の棟札が発見されており、御祭神は素戔嗚尊をお祀りしています。

所在地 さいたま市緑区東浦和5-20-2
指定区分 さいたま市指定有形文化財(建造物)

例祭日 7月23日

旧社殿を移した境内社

当社境内の御嶽神社、天津神社は寛文七年に造営されたかつての女体社、簸王子社の本殿を移築した社殿です。門客人社は現在の参道付近にあった荒脛巾社を寛文七年に現在地付近に定め造営したものです。新編武蔵風土記稿では、江戸期に杵築大社の摂社の門客人社と荒脛巾社が豊盤窓命・櫛盤窓命と同じ祭神を祀る事から門客人神社と改号し、同じく杵築大社の摂社の天前社の祭神である脚摩乳命・手摩乳命を配祀したとあります。そして、この事も当社と杵築大社とのつながりがある事の証であると記されています。

氏神と氏子

氏神様とは

氏神様(氏神社)は皆様が住んでいる地域を守って下さる神様です。古くは同じ一族がまともに住んでおりましたので、一族の長が先祖や一族のもととなった神様を祀り、氏神と申し上げましたが、時代が下るにつれ、土地の神である産土神や鎮守様と混ざり同様に扱われるようになりました。

氏神様に守られている地域の人々すべてを氏子といい、氏子を代表して神社に協力する方を氏子総代(以下、総代)といいます。

宗教法人である神社には責任役員があり、その人数は神社によって異なります。責任役員のうち代表役員は宮司となります。その他の責任役員は総代、崇敬者の中から選任されます。

敬神講話

当社には、氏子区域の他、崇

敬団体である敬神講社がございます。氏子区域外の敬神講社地区には評議員という役職の方がいらつしやいます。

敬神講社では、二月の節分祭、十一月の敬神講社大祭で御希望の方に、お札をお作りしております。こちらのお札は、総代・評議員を通してお申し込みを頂いており、神札所での授与は行っておりません。



(右) 講社大祭のお札

(左) 節分祭のお札

神棚のある生活様式のススめ

長く生活する中でそれまでと同様の、目線より高い場所での神棚の神祭りが困難になる方、家族構成の変化の中で神棚祭祀を次世代に継承する事は厄介と考え、納めてしまう方もいらつしやいます。しかしながら、家庭に神様を祀る事は、神様の恵みに感謝する心を養うとともに、優しさや思いやりの心を育むものとなります。

高い位置にある神棚を無理のない高さにする事や、現在の生活状況にあった宮形に替える事で神棚祭祀を続けるという選択も御検討頂きたいと思えます。

宮善商店などの神具店では伝統的な宮形だけでなく、マンションやアパートなどの集合住宅、和室のない住宅向けの神棚などさまざまな神具を取り扱っております。また、公益財団法人日本文化興隆財団ではインターネットでの注文も可能です。

新たに神棚の設置を検討されている方も、今後の神棚についてお悩みの方も、新しい祈りの形を考えてみたらいかがでしょうか。

宮善商店で取り扱う宮形一例



有限会社宮善商店 048-642-7178
<http://www.miyazenshouten.com/>

公益財団法人 日本文化興隆財団HP
<https://www.nihonbunka.or.jp/item/>

大宮二十景絵画コンクール

大宮区では、区内の見所を市民が選定した地域資源「大宮二十景」があり、当社や参道も選定されています。

区内の小学校の児童を対象とした「わたしの好きな大宮二十景絵画コンクール」には毎年五百を超える作品が出品され、二十四点が入賞作品に選ばれます。

展示場所は区報、区HPの他、そごう大宮、大宮駅東西連絡通路で展示されました(緊急事態宣言中につき、当社での展示は中止)。

武蔵一宮氷川神社賞



「節分の日 思い出の氷川神社」



「平成ひろばの木もれ陽」



「氷川神社の橋とカモ」



「わたしのすきなひかわじんじゃ」

詳細 大宮区役所HP <https://www.city.saitama.jp/omiya/003/p044714.html>

さいたま市立博物館企画展「さいたま八景」

氷川参道の二の鳥居近くのさいたま市立博物館では、三月二十三日より第三十二回企画展として「さいたま八景」が開催されています(五月五日まで、入場無料)。

江戸時代に中国の瀟湘八景や近江八景などに影響を受けて、全国各地の景色を八景に見立てて、絵画を描くことや、和歌や詩を詠むことで、風景を楽しむ文化が各地に広がりました。

全国各地の八景は千百以上の場所で確認されていますが、さいたま市内でも「岩槻古城八景(岩槻区)」、「与野八景(中央区)」、「大宮八景(大宮区)」、「日向十景(桜区)」などが確認されています。当社に関しましては、大宮八景に教えられています。



さいたま八景



氷川大宮略記 (さいたま市立博物館寄託)

夏越大祓の御案内

六月三十日午後二時、半年間の罪穢れを祓う大祓式を斎行致します。六月の大祓式は「夏越の大祓」「茅の輪くぐり」とも言われ、茅の輪をくぐって災厄を祓い、疫病を防ぎます。本年の茅の輪は六月十九日より七月四日まで設置予定です。

茅の輪守は六月十九日から授与開始予定、郵送を御希望の方はホームページを御覧下さい。



新能の御案内

大宮新能は、東北・上越新幹線の開業を記念し、地域文化振興と新しい観光の創造をめざし、昭和五十七年に始まりました。例年、三の鳥居から神橋間に特設舞台を設え、五月下旬に開催されておりましたが、本年はテレビ埼玉での放映とYouTubeでの動画配信を予定しております(視聴料金無料、通信費別途)。

演目：素謡 金春流 翁 演者未定
能 金春流 羽衣 本田光洋
テレビ埼玉 ..六月十二日(土) 十九時
YouTube ..六月十三日、九月十二日
テレビ埼玉・さいたま観光国際協会チャンネル



大宮新能に関するお問い合わせ先

公益社団法人 さいたま観光国際協会
048-647-8339(土・日・祝日休み)



第十八号は七月二十日発行予定です

1月からの数量限定お守「御力守(おちからまもり)」は3月6日に授与終了致しました。同じく数量限定の「咲守(さきまもり)」と、春の特別紙朱印「さくら」は3月20日より授与を致しました(頒布終了)。特別紙朱印の他、最新の御案内はホームページ、インスタグラムを御覧下さい。



MUSASHIICHINOMIYA.HIKAWA@INC.JP

発行 令和3年4月15日 発行所 水川神社社務所

写真協力 工藤裕之 宮野信昭 中村写真館 調神社 大間木水川神社 印刷所 株式会社 秀飯舎
さいたま市大宮区高鼻町1-407 電話 048-641-0137 <http://www.musashiichinomiya-hikawa.or.jp/>